

新型コロナ感染数増加 鹿児島は全国 2 番目

7/16(火)鹿児島放送



<https://news.yahoo.co.jp/articles/498ddc6456b17ce3121c14c0bdfc5995adf87341>

新型コロナの患者数が今、また増えています。特に県内は1医療機関あたりの患者報告数がおよそ1年ぶりに20人を超え沖縄に次ぐ、全国2番目の多さです。

県によりますと7月1日からの1週間に報告された新型コロナの1医療機関あたりの患者数は23.13人と全国平均の3倍近く。去年夏の患者数に匹敵する勢いです。

県内の定点医療機関の患者数は増加傾向で、7月の第1週は2059人と、このひと月で急増していることがわかります。年齢別にみると、10歳未満が457人、10歳代は473人と最も多く、20歳未満の感染が5割近くを占めています。

鹿児島市にある小児科では6月から発熱などの症状を訴える患者が増えたといいます。手足口病やRSウイルスの感染が多くを占めるものの…

【かごしまたんぽぽ小児科 山元 公恵院長】

「コロナの患者さんはここ2~3週間で明らかに増えてきている印象があります」

「お父さんお母さんが陽性だとか、保育園・小学校で陽性者がいるからという形での問い合わせが増えてますね」

「夏まつりとか、夏休みでお出かけするとか」

「人が接する機会が増えてきますよね、これからの時期」

イベントやレジャーなど人が集まる機会が増えるこれからの時期、こまめな感染対策がより一層求められます。

【かごしまたんぽぽ小児科 山元 公恵院長】

「熱が高いから、それが風邪か熱中症か区別がつかないと思いますので、なるべく水分をとって、きつければ早めに医療機関を受診するという形がいいのかなと思います」

「夏場で熱いので、外に出てるときにマスクをするのはなかなか難しいが、広い場所の時

はいらないが、人が多くなって密集するときにはマスクをした方がいいと思います」
なお、1医療機関あたりの患者数を保健所別にみると、種子島・西之表が44人と最も多く、指宿が32.67人、伊集院が30.6人、鹿児島市が28.13人などとなっています。県は手洗いや消毒、換気などの感染対策に取り組むよう呼びかけています。

新型コロナ感染拡大 5週連続で新規入院患者が100人超

7/16(火) 沖縄テレビ放送

県内における新型コロナウイルスの感染者が増えています。今月7日までの1週間で少なくとも136人が入院するなど、6月から5週連続で入院患者が100人を超える状況で、県が感染対策の徹底を呼びかけています。

7月1日から7日までの1週間で県内53の定点医療機関で報告された新型コロナウイルスの感染者の数は、一医療機関あたり29.92人でインフルエンザであれば警報レベルとなる、30人に迫る勢いです。

感染者は1586人にのぼり年齢別で見ると、50歳以上が過半数を占めていて、基幹定点医療機関7か所における入院者数は136人で5週連続で100人を超えています。

県が検体をゲノム解析したところ、新たな変異株K P.3の割合が92.6%を占めていて、置き換わりが進んでいます。

全国的にも流行しているK P.3について県は、抗原性が異なっているため、一度コロナに感染した人でもかかるおそれがあると指摘しています。

県は、感染を防ぐために手洗いや換気など基本的な対策の徹底を呼びかけています。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/fa534f759487d449a02d6712c8c7705fe3607920>